

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年8月1日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 16時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム サンライト (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 石松 成子 氏名 中村 朋美
事業所側対応者	職名 管理者 ・ 計画作成担当者 氏名 西田 房子 ・ 宮里 靖美 ヒアリングを行った職員数 4名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4675900106号		
法人名	社会福祉法人 桃蹊会		
事業所名	グループホーム サンライト		
所在地	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3617番地640 (電話) 0995-78-2320		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	

【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人、非常勤 3人、常勤換算15.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	霧島桜ヶ丘病院・霧島温泉クリニック・永利歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霧島の自然の中にあり、環境に恵まれたホームである。同敷地内に、グループの協力病院や介護施設があり、連携を図りながら「利用者にとって最善のサービスを提供しよう」との理念に添ったケアを実践している。利用者や職員がお互いに支えあい、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切に、明るく、楽しく過ごしている。また、運営推進会議に多くの家族の参加があり、家族の意見を活かした支援をしている。家族等の来訪時にも温かく細やかな配慮で接しており、気軽に訪ねて行きやすいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今までの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を考えて理念を作り上げ、また地域との付き合いや市との連携も、運営推進会議への参加を得ながら、交流や連携に努めており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がケアを振り返る機会として自己評価に取り組み、改善に向けて話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に家族の参加が多く、ホーム運営に多くの意見を引き出し、ボランティアや行事への積極的な協力などホームと家族との交流が図られ、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	運営推進会議で家族が自由に意見を述べる機会があり、また、年2回のアンケートや面会時・個別誕生会への招待など家族の意見を聞く機会を設け、運営へ反映させるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	託児所の子どもたちや小学生との交流、法人の夏祭り・文化祭での地域住民との交流、地域公民館に出かけるなど交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を見直し、地域の中で暮らし続けることを支える地域密着型サービスとしての理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時の理念の唱和や、月2回の会議において理念について話し合い、理念に添った日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	託児所の子どもたちや小学生との交流、法人の夏祭り、文化祭での地域住民との交流、地域公民館に出かけるなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がケアを振り返る機会として評価に取り組み、改善に向けて話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族、地域住民代表、市担当者などから具体的で貴重な意見が多く出されており、サービスの質の向上に活かしている。		

グループホームサンライト

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と日頃より連絡や相談をし、意見などをサービスの質の向上に活かしており、協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、個別に健康面、ホームでの様子など文書で報告したり、ホーム便りを作成し行事の様子や予定などを郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に多くの家族に参加してもらい意見を聞いている。年2回のアンケートや個別の誕生会に家族も招待し、要望や意見を聞く機会を設け、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。交代の場合は採用時に介護の基本や利用者について理解できるよう、引継ぎや勤務など工夫しており、新任職員はスムーズに受け入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、順番に参加し、研修報告を行っている。法人内で接遇や新人研修が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入し、研修など参加している。職員間の、同業者との交流や勉強会はこれからである。	○	職員間の、地域の同業者と相互訪問や交流活動をしていく取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、納得してサービスを利用できるように取り組んでいる。本人の生活スタイルなどを家族や関係者から聞き取り、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は梅干やらっきょう漬け等の作り方を教えてもらい、一緒にできばえを喜んだりしている。職員を本人がねぎらってくれるなど、支えあう関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時に本人や家族から思いや意向を聞いている。毎月個別の気づきノートを作成し、本人の思いや希望を共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を中心に職員で話し合っって計画書を作成している。そのつど家族の意見は手紙でもらったり、面会時に聴取し計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い計画の期間に応じて見直しを行っている。変化が生じた場合も必要に応じて計画を見直している。		

グループホームサンライト

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院介助や美容院等の送迎など支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある協力病院の主治医のほか、眼科や皮膚科など本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期についての方針を説明して、本人や家族等の同意書をもっており方針を共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや支援の場面場面で、入居者の誇りやプライバシーを尊重した対応を実践している。また、記録等の個人情報の保護にも取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な生活の流れの中で、起床時間や入浴など、体調や希望を尊重し、その人らしい暮らしを支援している。		

グループホームサンライト

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを考慮しながら、下ごしらえや調理・味付けなど一緒に行い、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き毎日入浴できる。それぞれの生活リズムに合わせた入浴時間や入浴方法を支援している。ドライブや買い物の際に足浴を楽しむこともある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりたたみや洗濯物たたみなどできる事をしてもらったり、毎日のレクリエーションや習字・踊り・歌など楽しく過ごせるよう支援している。折り紙や手芸品を地域の文化祭に出展している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や一人ひとりの体調に合わせ、芝生の庭や東屋への散歩をしている。ドライブや買い物など希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は一人ひとりの様子を見守りながら、同敷地内の施設とも連携を取り、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力して、消防訓練や避難訓練を行っている。法人の施設や職員寮が同敷地内にあり、緊急時の協力体制ができています。		

グループホームサンライト

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士と連携をとり献立を作成し、食事量や水分量も記録して栄養バランスに配慮している。刻みやミキサー食等一人ひとりに合わせた支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭がありホーム全体が明るく、中庭を中心に食堂と和室が配置され、ゆったりと落ち着いた雰囲気がある。季節の花が入り口や玄関に生けてあり、居心地良く過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、写真や手作りの作品など飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。